

## 1 青森県の推計人口（平成15年4月1日現在）

県人口	1,456,921人	（対前月 8,412人減少、対前年同月 5,129人減少）
自然動態	353人減少	（出生者数 909人、死亡者数 1,262人）
社会動態	8,059人減少	（転入者数 9,316人、転出者数 17,375人）

## 2 本県の経済動向

### (1) 経済概況

本県経済の動向をみると、鉱工業生産指数が前月比及び前年同月比を下回り、また、個人消費や住宅建設においても前年同月比を下回るなど、低調な動きとなっており、雇用情勢も有効求人倍率がなお全国最低水準で推移するなど、極めて厳しく、全体として依然厳しい状況が続いている。

### (2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産 平成15年2月の青森県鉱工業生産指数（平成7年=100）は、季節調整済指数が76.1で、前月比6.0%の低下となり、2ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は69.7で、前年同月比6.2%の低下となり、5ヶ月ぶりに前年同月を下回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成15年2月の現金給与総額（5人以上）は233,121円で前年同月比0.1%減となったが、このうち、定期給与は232,601円で前年同月比同となった。所定外労働時間（5人以上）は8.4時間で前年同月比10.5%増となった。3月の有効求人倍率は、0.32倍となり、3ヶ月連続同率となった。 … 3
- (2-3) 物価 平成15年3月の青森県消費者物価指数は、総合指数で99.8となり、前月比0.1%の上昇となり、3ヶ月ぶりで前月を上回った。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成15年2月の大型小売店売上高は、全店舗ベースで前年同月比7.3%増の148億7千5百万円となったが、既存店ベースでは前年同月比5.3%減となった。平成15年2月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,037台で、前年同月比1.3%の減となり、2ヶ月ぶりに前年を下回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成15年2月の新設住宅着工戸数は432戸で、貸家などの減少により前年同月比12.7%減となり、2ヶ月ぶりに前年を下回った。 … 6

### (3) 景気動向指数（平成15年2月分）

先行指数	44.4%	（9か月ぶりに50%を下回った）
一致指数	77.8%	（7か月連続で50%を上回った）
遅行指数	57.1%	（8か月連続で50%を上回った）

### (4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成15年4月期）

3か月前と比べた景気の現状判断DI	34.3	（前期比0.2ポイント増）
3か月後の景気の先行き判断DI	37.6	（前期比3.8ポイント増）

# 1. 青森県の推計人口（平成15年4月1日現在）

## 【概況】

平成15年4月1日現在の本県推計人口は、1,456,921人で、前月に比べ8,412人の減少となった。前年同月と比べると、5,129人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が909人、死亡者数が1,262人で、353人の減少となった。  
3月中の統計としては、出生者数と自然増加数が過去（昭和41年以降。）最少となり、死亡者数が過去最多となった。

### ○社会動態

転入者数が9,316人、転出者数が17,375人で、8,059人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増加数	自然増加数	出生者数		死亡者数	社会増加数	転入者数		転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			転入者数	転出者数	
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-	-	-
14. 4. 1	1,462,050	694,352	767,698	-0.673%	-9,911	-144	997	1,141	-9,767	7,601	17,368		
14. 5. 1	1,467,713	697,949	769,764	0.387%	5,663	-28	1,106	1,134	5,691	12,926	7,235		
14. 6. 1	1,467,873	698,055	769,818	0.011%	160	11	1,149	1,138	149	3,625	3,476		
14. 7. 1	1,467,528	697,874	769,654	-0.024%	-345	-44	967	1,011	-301	2,749	3,050		
14. 8. 1	1,467,434	697,787	769,647	-0.006%	-94	47	1,140	1,093	-141	4,036	4,177		
14. 9. 1	1,468,047	698,220	769,827	0.042%	613	24	1,082	1,058	589	4,412	3,823		
14.10.1	1,467,788	698,013	769,775	-0.018%	-259	-14	1,046	1,060	-245	3,401	3,646		
14.11.1	1,467,882	698,023	769,859	0.006%	94	37	1,160	1,123	57	3,858	3,801		
14.12.1	1,467,469	697,786	769,683	-0.028%	-413	-248	946	1,194	-165	2,913	3,078		
15. 1. 1	1,467,024	697,542	769,482	-0.030%	-445	-264	898	1,162	-181	3,165	3,346		
15. 2. 1	1,466,346	697,074	769,272	-0.046%	-678	-435	1,048	1,483	-243	3,056	3,299		
15. 3. 1	1,465,333	696,521	768,812	-0.069%	-1,013	-366	904	1,270	-647	2,610	3,257		
15. 4. 1	1,456,921	691,635	765,286	-0.574%	-8,412	-353	909	1,262	-8,059	9,316	17,375		

3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月	平6.3	7.3	8.3	9.3	10.3	11.3	12.3	13.3	14.3	15.3
出生者数	1,138	1,154	1,061	1,103	1,150	1,152	1,007	989	997	909
死亡者数	1,001	1,219	1,052	1,113	1,245	1,189	1,207	1,127	1,141	1,262
自然増加数	137	-65	9	-10	-95	-37	-200	-138	-144	-353

- ※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。
- ※2 平成14年4月1日から平成15年4月1日までの人口は平成12年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。
- ※3 増加数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。
- ※4 社会動態の算定には、県間移動数に加え、県内市町村間移動数を含めている。

## 2 本県の経済動向

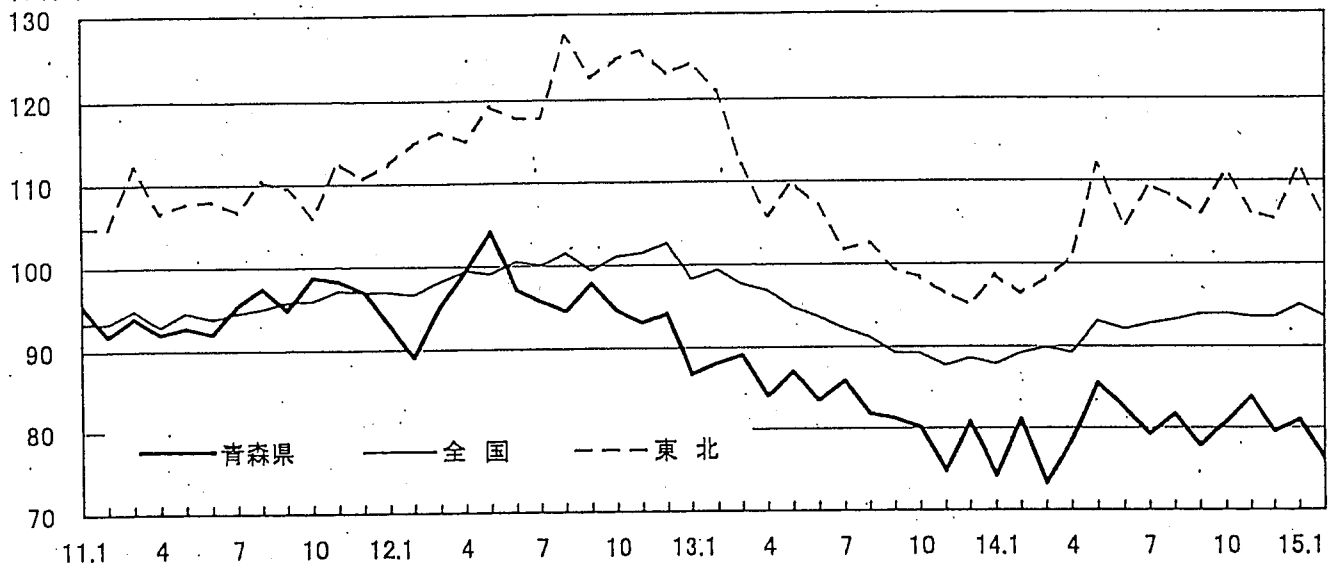
### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 製造業の生産

平成15年2月の青森県鉱工業生産指数(平成7年=100)は、季節調整済指数が76.1で、前月比6.0%の低下となった。また、原指数は69.7で、前年同月比6.2%の低下となった。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電気機械工業、プラスチック製品工業、その他製品工業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、化学工業、金属製品工業などが低下し、鉱工業全体では6.0%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)(平成7年=100) ※全国は平成12年=100

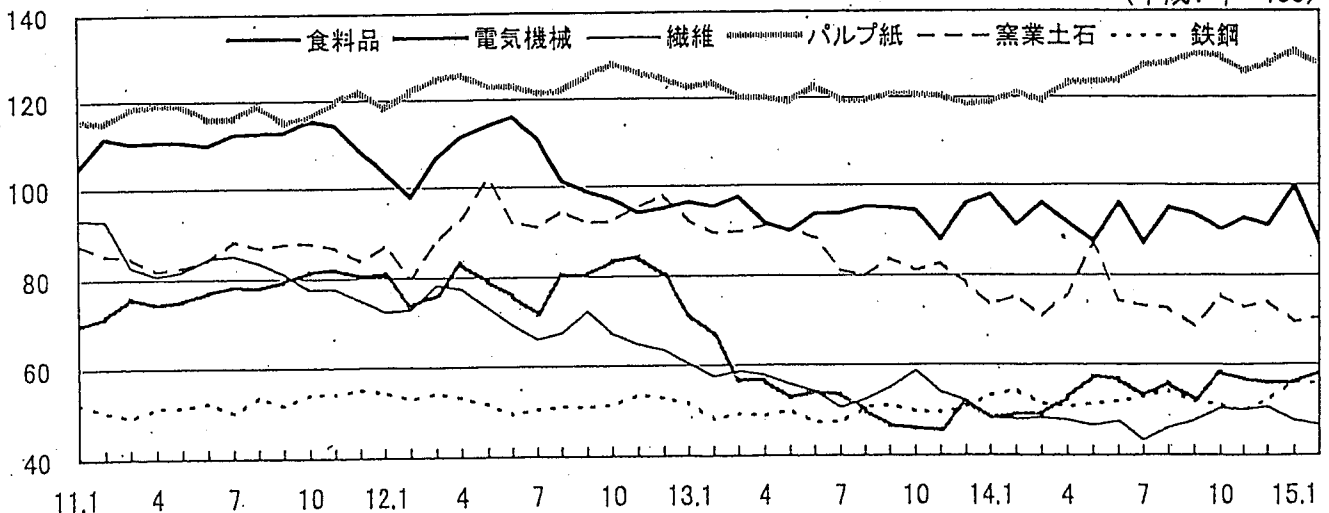


◎業種別動向(前月比)

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
(鉱工業)					
電気機械工業	3.9	8.1	食料品工業	-12.6	-66.6
プラスチック製品工業	15.0	4.8	化学工業	-64.4	-34.8
その他製品工業	19.8	2.1	金属製品工業	-14.9	-5.4
窯業・土石製品工業	1.4	1.3	パルプ・紙・紙加工品工業	-2.6	-4.9
石油・石炭製品工業	6.1	1.1	家具工業	-27.7	-2.0
				-6.0	-100.0

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成7年=100)

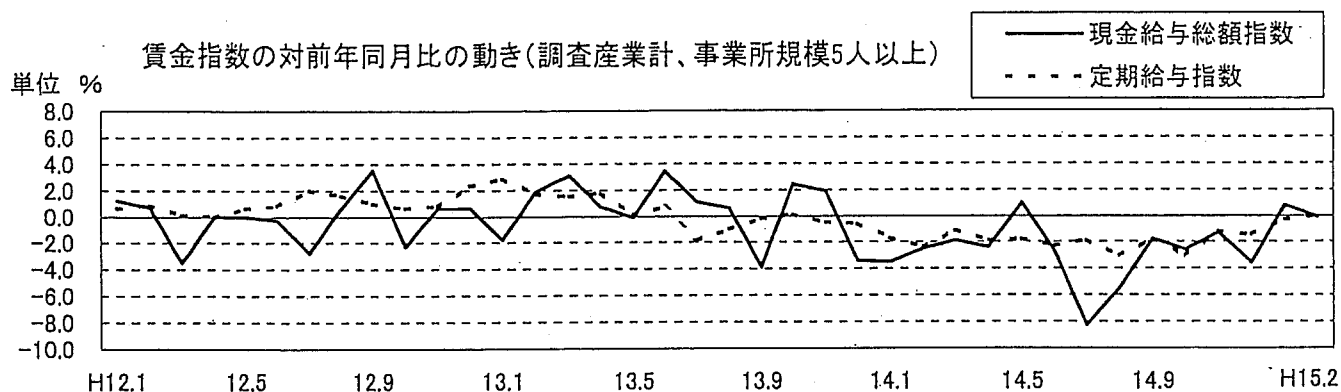


資料: 県統計情報課「鉱工業生産指数月報」

## (2-2) 雇用情勢

平成15年2月の現金給与総額は233,121円で現金給与総額指数(平成12年=100)では81.3となり、前年同月比0.1%減となった。このうち、定期給与は232,601円で定期給与指数では98.4となり、前年同月比同となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.5となった。

所定外労働時間は8.4時間で、所定外労働時間指数では97.7となり、前年同月比10.5%増となった。3月の有効求人倍率は、0.32倍となり、3ヶ月連続同率となった。

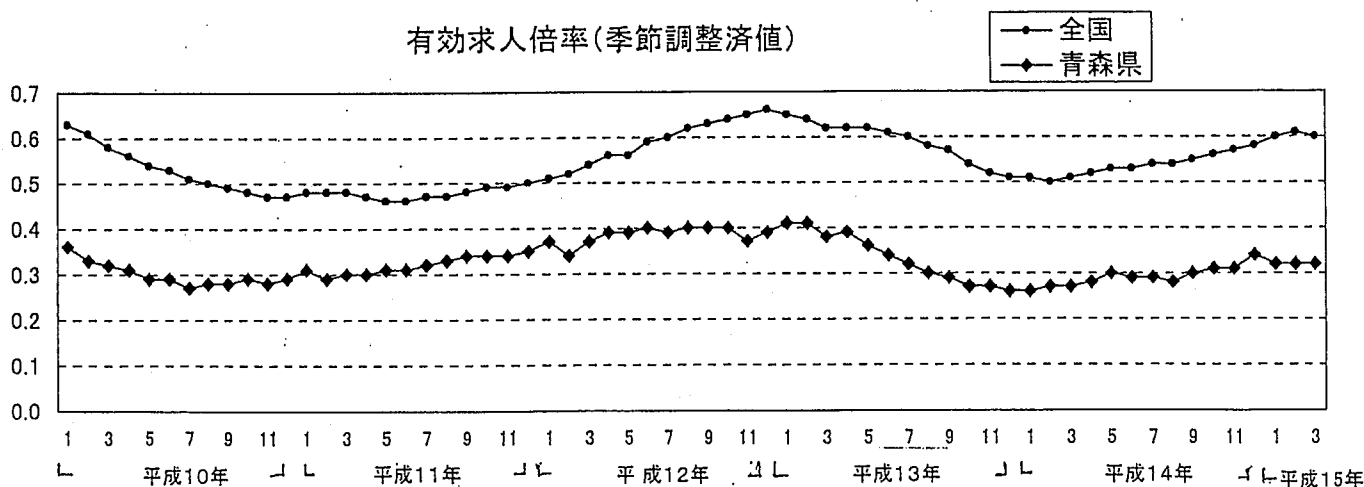


賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	233,121 円	280,735 円	81.3	78.9	-0.1 %	-0.1 %
定期給与	232,601 円	278,499 円	98.4	98.0	0.0 %	0.0 %
特別給与	520 円	2,236 円	—	—	—	—
総実労働時間	152.3 時間	150.6 時間	96.0	97.4	-1.1 %	-0.3 %
所定内労働時間	143.9 時間	140.7 時間	95.9	97.2	-1.6 %	-0.8 %
所定外労働時間	8.4 時間	9.9 時間	97.7	100.0	10.5 %	6.5 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。2.前年同月比は指数によって算出している。

有効求人倍率(季節調整済値)



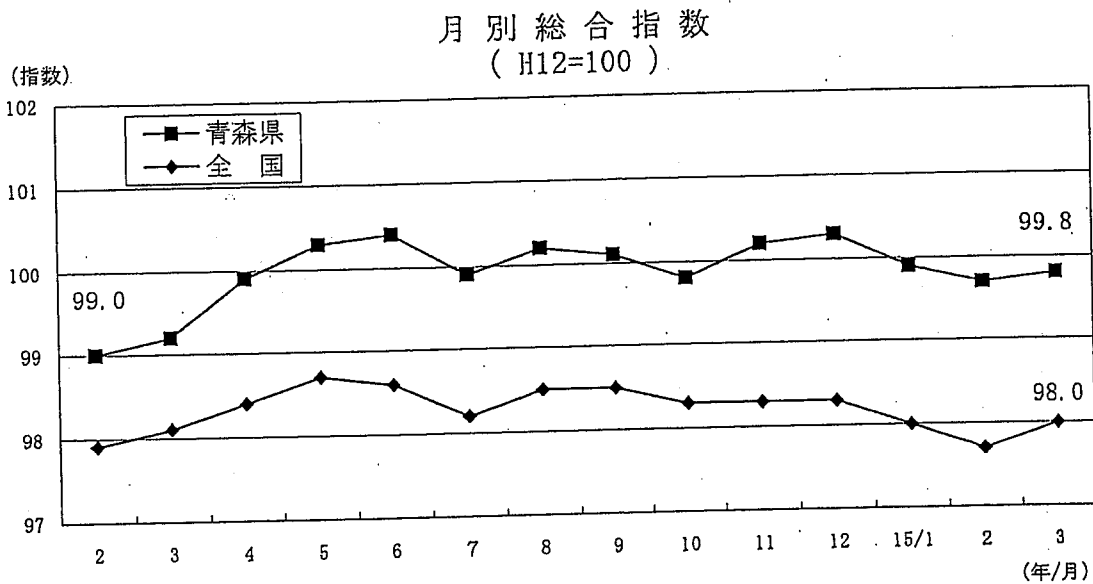
資料:青森労働局職業安定部職業安定課

(2-3) 物価

平成15年3月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で99.8となり、前月比0.1%、前年同月比0.6%といずれも上昇した。

前月指数と比較すると、「交通・通信」は、交通（航空運賃等）、自動車等関係費（ガソリン）の値上り等により上昇した。

「家具・家事用品」は、家庭用耐久財（電気冷蔵庫等）、寝具類（布団・毛布）の値下り等により下落した。



10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

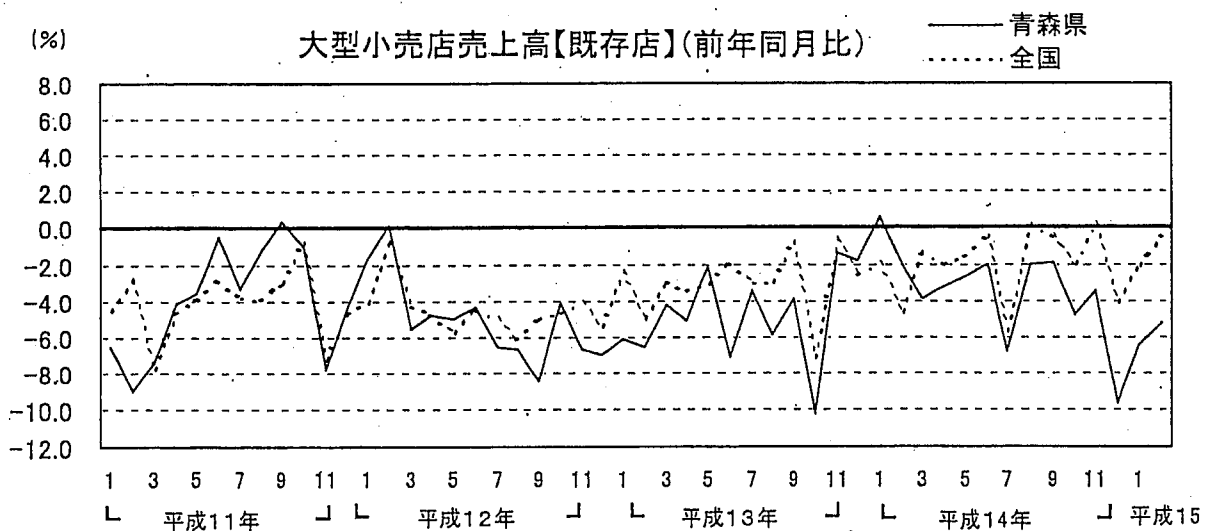
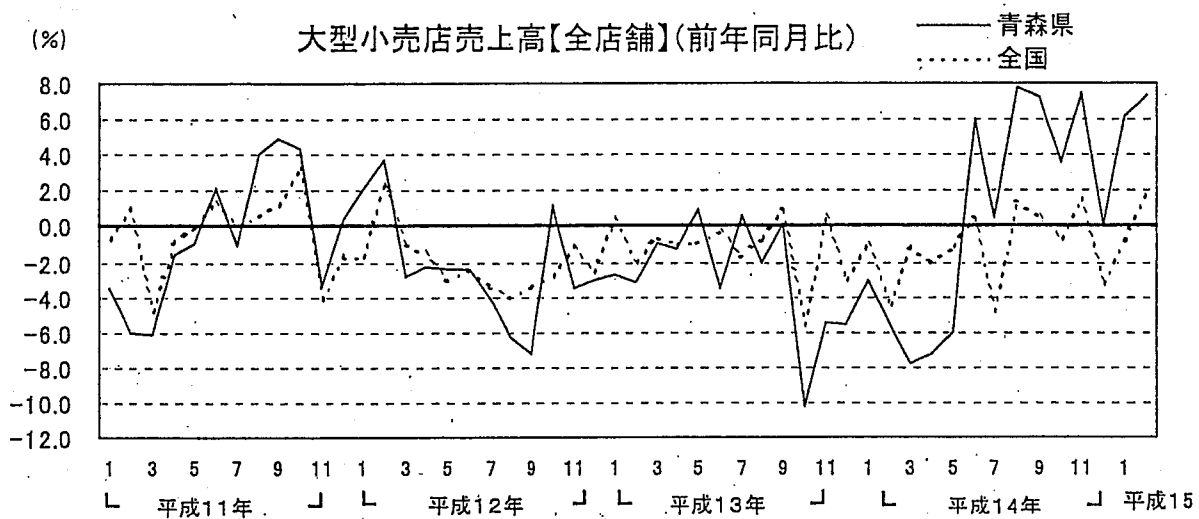
	総合	総合 (持ち家の 家賃を除く)	総合 (生鮮 食品を除く)	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家具 ・家事 用品	被服及 び履 き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯 楽	諸雑費
当月指数	99.8	98.4	99.7	100.6	101.5	106.4	99.6	94.0	91.6	104.1	98.2	100.0	92.5	99.8
前月比	0.1	0.1	0.1	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.1	0.3	▲ 0.4	0.2	0.0	0.8	0.0	0.5	0.0
前年同月比	0.6	0.3	0.3	0.8	7.4	2.3	▲ 0.2	▲ 0.9	1.0	▲ 0.3	0.9	▲ 1.2	▲ 1.2	0.5

資料：県統計情報課「青森県消費者物価指数月報」(速報)

## (2-4) 個人消費

平成15年2月の大型小売店売上高は、全店舗ベースではスーパーの飲食料品などの伸びが寄与して、前年同月比7.3%増の148億7千5百万円となったが、既存店ベースでは前年同月比5.3%減となった。

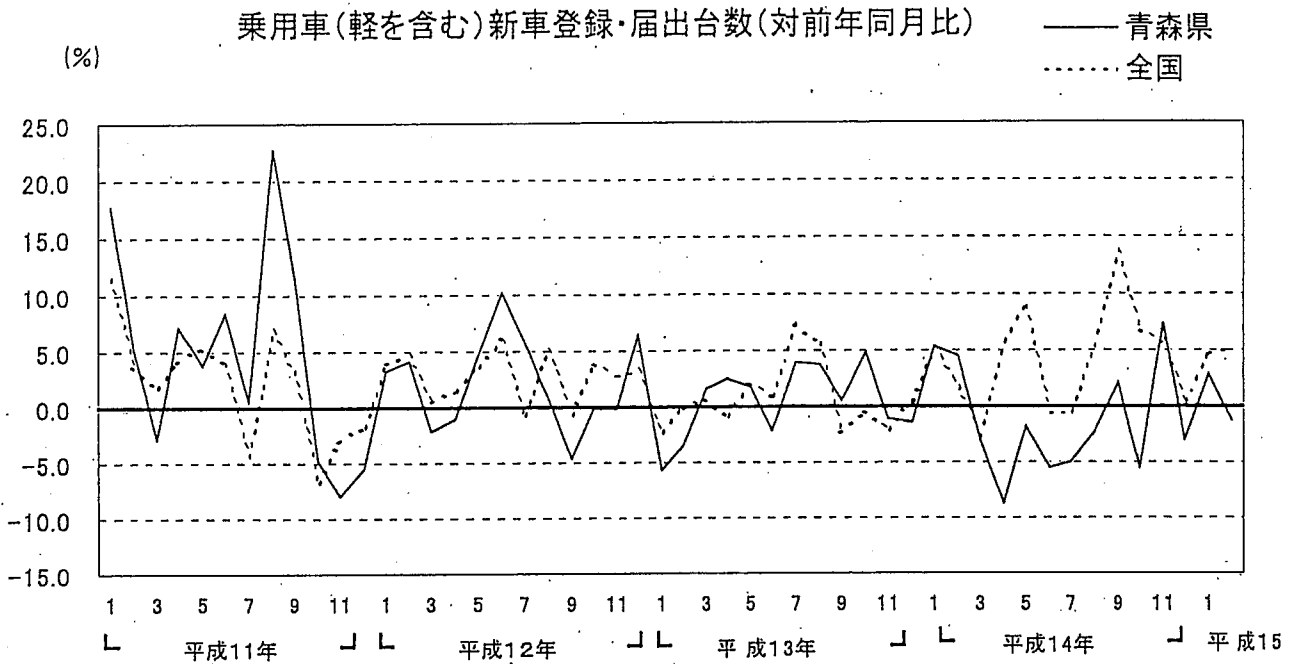
平成15年2月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,037台で、小型乗用車、軽乗用車はいずれも増加したが普通乗用車の減少が大きいことから前年同月比1.3%減となり、2ヶ月ぶりに前年を下回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

※ 大型小売店は従業者が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

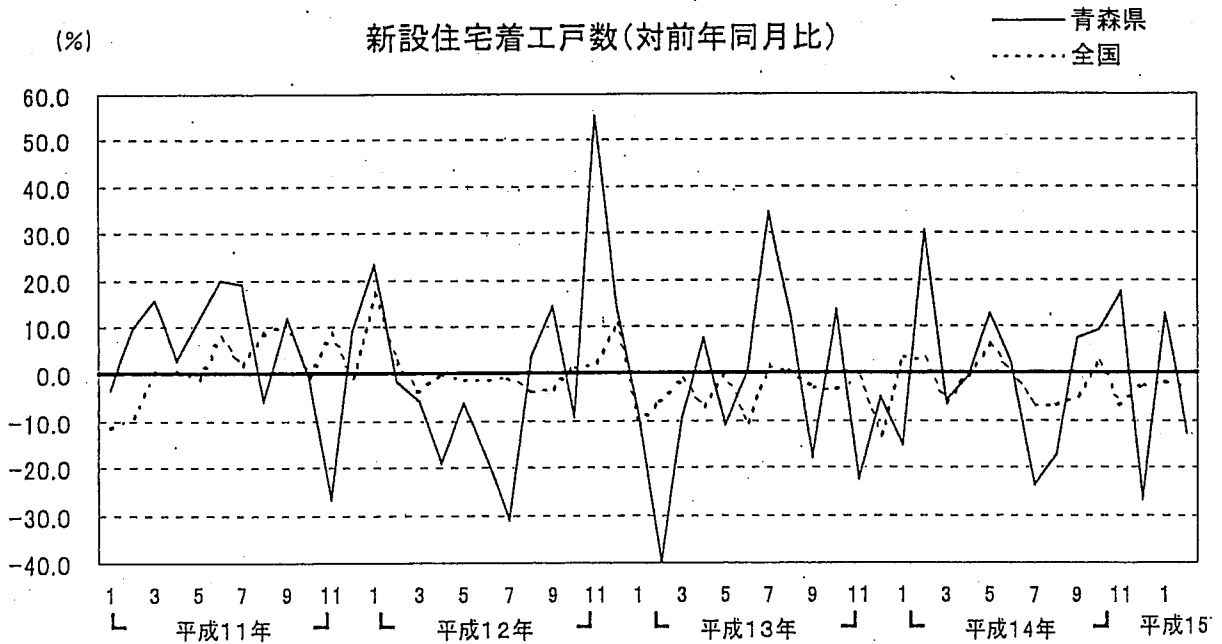
乗用車(軽を含む)新車登録・届出台数(対前年同月比)



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、  
 日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

平成15年2月の県内新設住宅着工戸数は432戸で、貸家などの減少により前年同月比12.7%減となり、2ヶ月ぶりに前年を下回った。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

### (3) 青森県景気動向指数

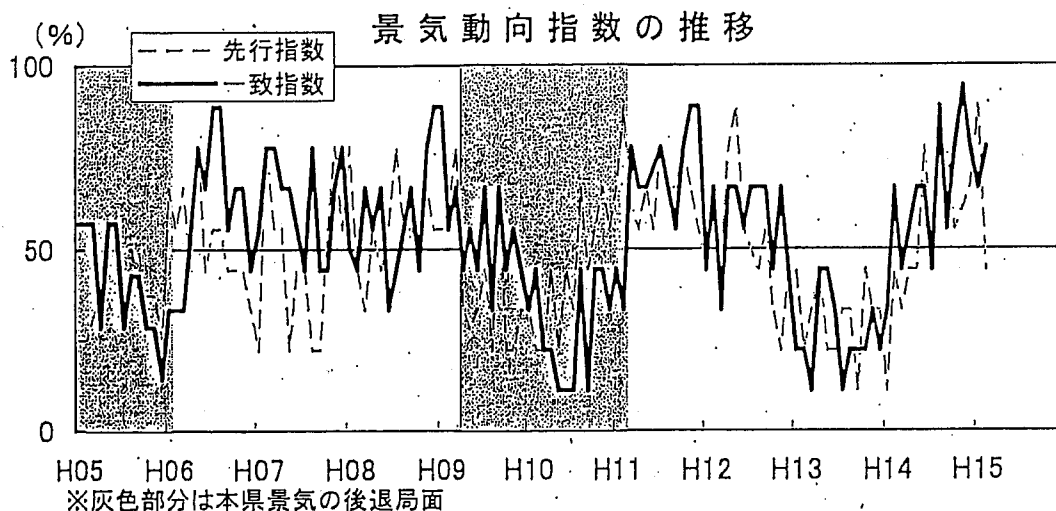
平成15年2月の青森県景気動向指数は、先行指数44.4%、一致指数77.8%、遅行指数57.1%となった。

先行指数は、9か月ぶりに50%を下回った。

一致指数は、7か月連続で50%を上回った。

遅行指数は、8か月連続で50%を上回った。

2月の一致指数は、流通関連の指標等がプラスであったことから、50%を上回った。



#### ●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています)

プラスの指標		マイナスの指標	
<b>先行系列 (9指標中5指標がマイナス)</b>			
所定外労働時間指数 (全産業)	8か月連続	新規求人数 (常用)	5か月連続
建築着工床面積 (鉱+商+サ)	4か月連続	入職率 (製造業)	2か月ぶり
乗用車新車登録届出台数	4か月連続	新設住宅着工戸数	2か月ぶり
企業倒産負債額	3か月連続	中小企業景況DI	3か月ぶり
		生産財生産指数	7か月ぶり
<b>一致系列 (9指標中7指標がプラス)</b>			
大口電力使用量	11か月連続	鉱工業生産指数	2か月連続
東北自動車道IC利用台数	8か月連続	雇用保険基本手当初回受給者数	7か月ぶり
日銀券月中発行高	5か月連続		
電気機械生産指数	3か月連続		
大型小売店販売額 (実質)	2か月連続		
有効求人数 (常用)	2か月ぶり		
海上出入貨物量 (八戸港)	3か月ぶり		
<b>遅行系列 (7指標中4指標がプラス)</b>			
常用雇用指数 (製造業)	9か月連続	1人平均月間現金給与総額	2か月連続
信用保証申込金額	8か月連続	輸入通関実績 (八戸港)	2か月連続
消費者物価指数 (帰属家賃除く総合)	4か月連続	勤労者世帯家計消費支出 (実質)	2か月ぶり
単位労働コスト (製造業)	7か月ぶり		

資料：県統計情報課「青森県景気動向指数月報」



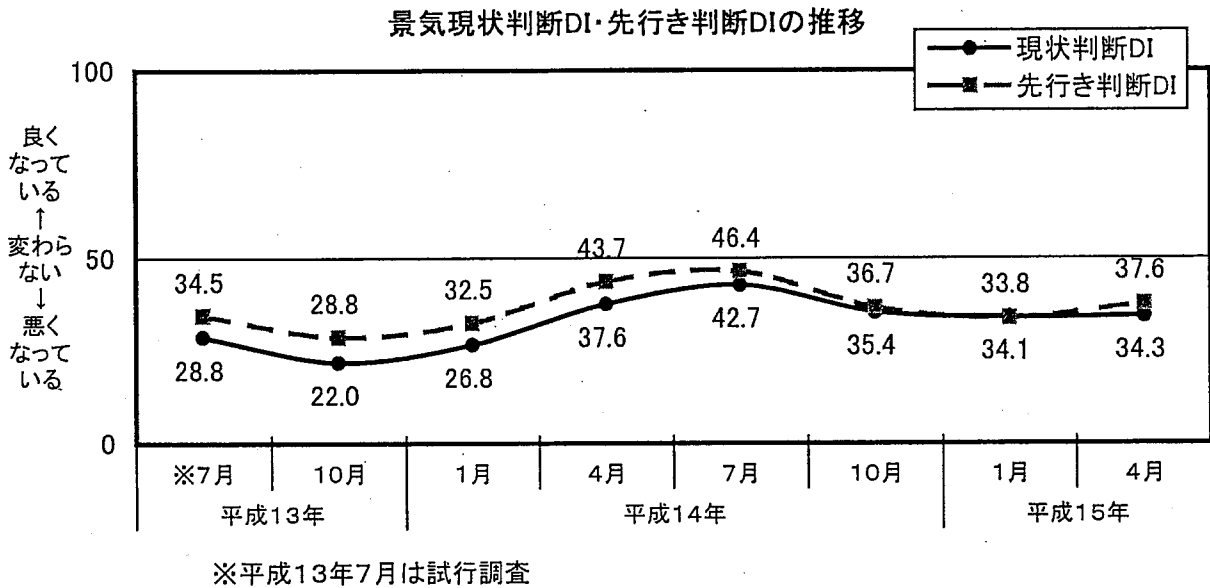
#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

平成15年4月期の景気ウォッチャー調査は、4月1日～5月1日を調査期間とし、回答率93%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは34.3で、前期調査より0.2ポイント増加した。

3か月後の景気の先行き判断DIは37.6で、前期調査より3.8ポイント増加した。

4月期は、現状判断DI、先行き判断DIとも3期ぶりにポイントが増加したものの、横ばいを示す50を依然として下回っている。



#### ● 3か月前と比べた景気の現状判断

**動** 前期調査と比べると、「やや悪くなっている」が減少したことにより、0.2ポイント増の34.3となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、入学・就職等に伴う消費増があったとの声もあるものの、依然として来客数・客単価とも減少傾向にあることや、イラク戦争や医療費負担増等による不景気感・不安感増長や雇用不安等が挙げられていた。

**向** 地区別では、前期調査に比べて、東青及び県南地区で「やや悪くなっている」が減少し「やや良くなっている」及び「変わらない」が増加した一方、下北地区では「悪くなっている」が増加した。

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

**動** 前期調査と比べると、「やや良くなっている」と答えた人が増加し、「やや悪くなっている」が減少したことにより、3.8ポイント増の37.6となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由を見ると、観光シーズンを迎えての観光客の増加が見込まれるものの、イラク戦争の影響による原油価格高騰や医療費負担等による家計圧迫等が不安材料として挙げられていた。

**向** 地区別では、前期調査に比べて、津軽、県南及び下北地区で観光シーズンを迎えること等から増加している。東青地区では地元百貨店の閉店による影響を危惧する声もある。

資料：県統計情報課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 昨年よりの新幹線「はやて」により、1～3月期の業績アップ20%位。現在、春の観桜ツアーの申込みも昨年から見ても少ですが良いようです。(観光型ホテル・旅館＝東青)
- 実用品の販売は順調であるが、高額品は不振。(百貨店＝東青)
- 現時点では、イラク戦争や医療費負担増などの影響はさほど感じないし、新幹線(はやて)の効果も含め、継続的に来客がある。(観光名所等＝津軽)
- 公共工事の発注減及び入札方法の改正、民間設備投資減から厳しい競合状態が続いており、各社ともに受注額の大幅減となっている。(建設＝県南)
- △ デフレ状況下であり、前年売上(利益も同様)を確保できない状況が続いている。リストラ、倒産、廃業等が依然としてあり、不安状態となっている。(卸売業＝県南)
- △ 来街者数及び商店の売上げが下降線をたどっている。(商店街＝津軽)
- × 失業、倒産がやたらと多い。生活に余裕がない人が多く、本当に必要なものしか買わない人が見受けられる。(コンビニ＝下北)
- × 景気悪化に耐えきれず、経営改善に苦悩する経営者が多く見受けられる一方で、少数の勝ち組企業は経営環境に適した営業基盤を着々と築いている感がある。企業間の優劣の差が、より鮮明になってきている。(経営コンサルタントラン＝東青)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- イラク戦争や医療費負担増などが日常消費活動にどう影響するか不明ではあるが、海外旅行が激減する中で国内旅行が増加する方向に動けば、観光入込は増えるものと考えられる。(日常生活に大きく影響するようになれば、余暇活動が抑えられ、景気が上向きには働かない。)(観光名所等＝津軽)
- 店設備投資に不安があり、リストラがまた再燃状態にある。(衣料専門店＝東青)
- 桜祭りで一時期は売上げがアップすると思われるが、その後は変わらないか、やや悪くなると思われる。景気がよくなる材料がない。(一般飲食店＝津軽)
- 失業者が減少していかなければ、消費者の財布のヒモは緩まないのではないかと考えられます。特に公共事業の減少の為、土木業従事の方の失業が目立ちます。皆が安定した収入を得られなければ景気も良くなっていかないと考えます。(一般飲食店＝下北)
- 新聞広告の掲載量は依然として低水準のまま。特に地元の広告が不振。3～4月にかけては住宅関連の広告が掲載されるが今年も低水準のまま。各企業の販売促進活動は停滞したまま。(新聞社求人広告＝県南)
- △ 中東のイラク戦争の長期化により、石油値上がり等の物価上昇と不振感による景気の下向きが見られると思います。(観光型ホテル・旅館＝東青)
- △ 雇用の場が多くなるとは思えない。反対にリストラや閉店、倒産が出るのではないかと考える。(スーパー＝下北)
- × 買い回り傾向が、より強く感じられるようになってきたことに加え、失業、就職難、収入減、人口減等が経済規模全体を小さくしそうな感じがする。(スーパー＝東青)
- × 株安、原油高騰等イラク戦争による影響が非常に大きい。給与引下げ、リストラによる収入減少による消費マインドの落込みが激しく、今後ますます、景気落込みが予想される。(都市型ホテル＝東青)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている  
資料：県統計情報課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」